



夕中

《 教育目標 》

「ふるさと夕張に誇りを持ち
明日を創造する生徒の育成」

TEL 59-7340
FAX 59-7173

平成30年 9月18日 発行
発行責任者 校長 橋本 展晴

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について

今年の4月17日（火）、全国の小学校（義務教育学校前期課程・特別支援学校小学部を含む）の第6学年と中学校（義務教育学校後期課程・中等教育学校・特別支援学校中等部を含む）の第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、3年生の生徒の皆さんには個人の結果が掲載された「個人票」を配布いたしました。あわせて、本校の調査結果の概要を保護者・生徒の皆様にお知らせいたします。なお、学力は多面的な見方をしなければなりません。今回の調査で測定できるのは学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面しか見ることができないことをご理解いただきますようお願いいたします。

1 全国学力・学習状況調査の目的と実施教科等

（1）調査の目的

今回の全国学力・学習状況調査は、次の3つのことを目的として実施されました。

- ◎義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◎学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◎以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（2）実施教科等

- ①国語A（主として「知識」に関する問題） ②国語B（主として「活用」に関する問題）
- ③数学A（主として「知識」に関する問題） ④数学B（主として「活用」に関する問題）
- ⑤理科（理科については、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に出題）
- ⑥生徒質問紙調査（学習意欲や学習方法、生活習慣等に関する質問紙調査）
- ⑦学校質問紙調査（指導方法や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査）
 - ※「知識」→身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした出題
 - ※「活用」→知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした出題

2 全国・北海道の状況

全国及び北海道の公立中学校の学力調査の結果（平均正答率）は下記の通りです。

| | | 国語 A | 国語 B | 数学 A | 数学 B | 理 科 |
|----------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 平均正答率（％） | 北海道 | 76.6% | 61.2% | 64.9% | 45.8% | 66.7% |
| | 全 国 | 76.1% | 61.2% | 66.1% | 46.9% | 66.1% |

※北海道の平均正答率については、国から提供されたデータをもとに北海道教育委員会が独自に算出した小数値で示しています。

※北海道の状況の詳細につきましては、北海道教育委員会のホームページでご覧いただくことが可能です。

3 学力調査における本校の結果（概要）

(1) 国語について

①国語A（主として「知識」に関する問題）

- ◎本校3年生の平均正答率は、北海道・全国の平均正答率とほぼ同程度の結果でした。
- ◎調査結果を設問の領域別に見ていくと、「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、北海道・全国の平均正答率と同程度であり、一定の定着が図られていることが明らかになりました。一方、「話すこと・聞くこと」については、北海道・全国の平均正答率を下回っており、定着に課題があることが明らかになりました。
- 平均正答率が比較的高かった問題の例
- ・漢字を書く問題 「紙でひもを**タバ**ねる」（正答：束）
 - ・古典の文章と現代語訳を対比させて内容を捉える問題 「これをほめていはく、」（正答：言うには）
- ▲平均正答率が比較的低かった問題の例
- ・語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題 「彼は（1 水気 2 せき 3 紙 4 くう）を切ったように話し始めた。」（正答：2 せき）
 - ・行書の書写の作品「野花」（図1）への助言として、適切なものを選択する問題。（正答：㉗の部分は筆脈を意識して、次の画へのつながりが分かるように書きましょう。）

図1



②国語B（主として「活用」に関する問題）

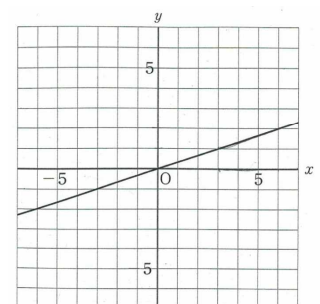
- ◎本校3年生の平均正答率は、北海道・全国の平均正答率を下回る結果でした。
- ◎調査結果を設問の領域別に見ていくと、「話すこと・聞くこと」については、北海道・全国の平均正答率とほぼ同程度であり、一定の定着が図られていることが明らかになりました。一方、「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、北海道・全国の平均正答率を下回っており、定着に課題があることが明らかになりました。
- ◎問題の形式については、正解を語群等から選ぶ「選択式」の問題に比べて、与えられた条件のもとで文章を書いて解答する「記述式」の問題の平均正答率が低く、北海道・全国の平均正答率との差も大きいことが明らかになりました。
- 平均正答率が比較的高かった問題の例
- ・ロボットについて発表した発表者に対して、2人の質問者が質問する場面設定の問題において、2人に続いて自分が質問するとしたらどのような質問をするか、実際に話すように書く問題。（話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問することができるかどうかをみる問題）
- ▲平均正答率が比較的低かった問題の例
- ・古典を現代語に訳した文章を読んで、話のあらすじを2つの条件「話の展開を取り上げて書く」「70字以上120字以内で書く」にしたがって書く問題。（相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書くことができるかどうかをみる問題）

(2) 数学について

①数学A（主として「知識」に関する問題）

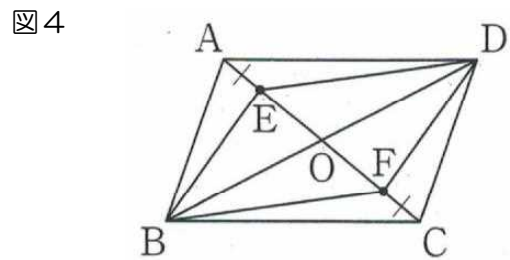
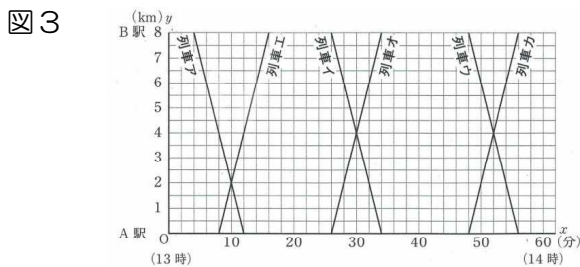
- ◎本校3年生の平均正答率は、北海道・全国の平均正答率を下回る結果でした。
- ◎調査結果を設問の領域別に見ていくと、「資料の活用」については、北海道・全国の平均正答率とほぼ同程度であり、一定の定着が図られていることが明らかになりました。一方、「数と式」「図形」「関数」については、北海道・全国の平均正答率を下回っており、定着に課題があることが明らかになりました。
- 平均正答率が比較的高かった問題の例
- ・単項式どうしの除法の計算問題 「 $6a^2b \div 3a$ を計算する。」（正答： $2ab$ ）
 - ・ひし形について正しく述べたものを選ぶ問題（正答：ひし形は、線対称な図形であり、点対称な図形でもある。）
- ▲平均正答率が比較的低かった問題の例
- ・指数を含む正の数と負の数の計算問題 「 $2 \times (-5^2)$ を計算する。」（正答： -50 ）
 - ・比例のグラフから、 x の変域に対する y の変域を求める問題 「比例のグラフ（図2）について、 x の変域が $3 \leq x \leq 6$ のとき、 y の変域を求める。」（正答： $1 \leq y \leq 2$ ）

図2



②数学B（主として「活用」に関する問題）

- ◎本校3年生の平均正答率は、北海道・全国の平均正答率を下回る結果でした。
- ◎調査結果を設問の領域別に見ていくと、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」において、北海道・全国の平均正答率を下回っており、数学に関して、知識・技能を活用する力の定着に課題があることが明らかになりました。
- ◎解答をいくつかの選択肢の中から選ぶ「選択式」の問題に比べて、数字や式で答える「短答式」の問題や、文章や式を組み合わせる「記述式」の問題の方が、「無解答率」（解答欄に答えを記入していない割合）が高いことが明らかになりました。特に、「記述式」の問題については、5問中4問で、「無解答率」が全国平均を上回っており、文章や式を組み合わせる説明する力の定着に課題があることが明らかになりました。
- 平均正答率が比較的高かった問題の例
 - ・グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈する問題 「下の図3のグラフから、列車のすれ違いは、A駅からの道のりが（①）kmの地点で1回、A駅からの道のりが（②）kmの地点で2回起こる。」（正答：①2 ②4）
- ▲平均正答率が比較的低かった問題の例
 - ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題 「下の図3のグラフで、A駅から6kmの地点において、列車アが通ってから列車工が通るまでにおよそ何分かかかるか、グラフから求める方法を説明する。」（正答例：列車アと列車工のグラフのyの値が6のときのxの値の差を求める。）
 - ・図形の性質について、付加された条件の下で新たな事柄を見だし、説明する問題 「下の図4で、四角形ABCDを正方形に変えると四角形EBFDはどんな四角形になるか“～ならば、～になる”という形で書く。」（正答：四角形ABCDが正方形ならば、四角形EBFDはひし形になる。）



(3) 理科について

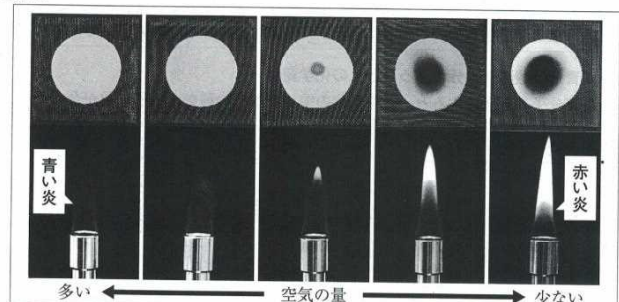
①理科（「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に出題）

- ◎本校3年生の平均正答率は、北海道・全国の平均正答率をやや下回る結果でした。
- ◎主として「知識」に関する問題の平均正答率は、北海道・全国の平均正答率と同程度だったのに対して、主として「活用」に関する問題の平均正答率は、北海道・全国を下回る結果でした。
- ◎調査結果を設問の領域別に見ていくと、「生物的領域」「地学的領域」については、北海道・全国の平均正答率とほぼ同程度だったのに対して、「物理的領域」「化学的領域」については、北海道・全国の平均正答率を下回る結果でした。
- 平均正答率が比較的高かった問題の例
 - ・神経系の働きについて問う問題 「“信号を見てブレーキを踏む”という反応の経路目→（ ）神経→脳・脊髄→運動神経→筋肉 の（ ）に適する語句を答える。」（正答：感覚）
 - ・植物の葉などから水蒸気が出る働きについて問う問題 「“水蒸気が植物から出る働き”を（ア 光合成 イ 呼吸 ウ 気孔 エ 蒸散）という。」（正答：エ 蒸散）
- ▲平均正答率が比較的低かった問題の例
 - ・実験を計画する際に条件制御の知識・技能が活用できるか問う問題 「図5のようにガスバーナーの空気の量を変えて、炎の色と金網につくスス（炭素）の量を調べるとき、（ X ）に適する“変えない条件”を答える。」（正答例：金網の位置（高さ））

図5

| | |
|--------|---|
| 変える条件 | 空気の量 |
| 変えない条件 | ガスの量、 <input type="text" value="X"/> 、..... |

【結果】



(4) 改善の方策

- ◇夕張中学校「学習のきまり」を全学級・全教科で統一して指導し、授業に臨む心構えや意欲的に学習に取り組む姿勢を定着させていきます。
- ◇その授業の「目標」や「課題」をはっきり提示し、見通しをもって授業に取り組むことができるようにするとともに、学習内容を振り返る場面を設定し定着を図ります。
- ◇数学科においては、チームティーチングと習熟度別少人数による指導、英語科、技術・家庭科においては、チームティーチングによる指導を実施し、生徒一人一人の理解の度合いに応じたきめ細かな授業を実施していきます。
- ◇国語科においては、「目的や場面に応じた的確に話したり聞いたりする指導」や「目的に応じて読み、内容を的確に捉える指導」等を意図的・計画的に行い、教科で身につけるべき能力の伸長を図ります。
- ◇数学科においては、「正の数・負の数を用いた表現」「文字を用いた式の計算」「基本的な図形の性質」など「基礎的・基本的な知識や技能」の定着を図るとともに、「実生活における事象と関連を図った授業」を意図的・計画的に行い、教科で身につけるべき能力の伸長を図ります。
- ◇理科においては、各分野の学習における「基礎的・基本的な知識や技能」の定着を図るとともに、「観察・実験の結果を分析して解釈する学習活動」等を意図的・計画的に行い、教科で身につけるべき能力の伸長を図ります。
- ◇定期テストや学力テストに加え、「小テスト」や「単元テスト」「チャレンジテスト」等を適切に実施し、学習内容の定着を図ります。
- ◇家庭学習の取組を促す指導（教科担任による点検・助言、各教科や学級での呼びかけ、資料の配布、提出数の表示など）を行うとともに、家庭学習の取り組み方についても各教科や学級で指導していきます。
- ◇コミュニティ・スクールとの連携も図りながら、生徒が自主的に学習に取り組む機会を提供します。
- ◇漢字検定や英語検定の受検を奨励し、資格取得を目指して学習に取り組む学校風土を醸成します。（夕張市から検定料の補助を受けられることになっています。）
- ◇Q-Uアンケート等を活用し、教育相談活動を充実させることで、「学習効果の高い授業」の前提となる望ましい学級集団の構築や教師と生徒、生徒同士の良好な人間関係の構築に努めます。
- ◇教職員の研修を充実させ、「生徒が共に学び、高め合う授業」のあり方を研究し、日常の授業に還元するとともに、研究授業等を実施して、その成果を検証していきます。

4 学習状況調査における本校の結果（概要）

学力調査とともに実施された「学習状況調査」では、家庭での生活習慣や生活体験、社会への関心や規範意識などについて調査が行われました。その結果、本校の3年生について、次のような結果が出ています。

○：全国と比較して高い傾向 ▲：全国と比較して低い傾向（±7%）

| 質 問 事 項 | | 本校3年生の割合 | |
|-------------------------|-------------------|----------|---|
| ＜生活習慣＞ | | | |
| 朝食を食べて登校する | | 76.9% | ▲ |
| 毎日、同じくらいの時間に寝ている | | 57.7% | ▲ |
| 毎日、同じくらいの時間に起きている | | 84.6% | |
| 放課後に何をして過ごすことが多いか（複数回答） | 部活動 | 53.8% | ▲ |
| | 勉強・読書 | 42.3% | |
| | 地域の活動 | 0% | |
| | 学習塾等 | 23.1% | ▲ |
| | 習い事 | 3.8% | ▲ |
| | スポーツ | 15.4% | |
| | 家でテレビ・ゲーム・インターネット | 84.6% | ○ |
| | 家族と過ごす | 61.5% | ○ |
| 友達と遊ぶ | 19.2% | ▲ | |
| 週末に何をして過ごすことが多いか（複数回答） | 学校で授業 | 7.7% | |
| | 部活動 | 50.0% | ▲ |
| | 勉強・読書 | 50.0% | ○ |
| | 学習塾等 | 23.1% | |
| | 習い事 | 3.8% | |
| | スポーツ | 19.2% | |
| | 地域の活動 | 7.7% | |
| | 家でテレビ・ゲーム・インターネット | 76.9% | |
| | 家族と過ごす | 53.8% | ▲ |
| 友達と遊ぶ | 26.9% | ▲ | |

| 質 問 事 項 | 本校3年生の割合 |
|---|----------|
| ＜学習習慣・読書習慣＞ | |
| 平日に家庭学習を1時間以上する | 50.0% ▲ |
| 1日30分以上読書をする | 38.5% ○ |
| 家庭で、自分で計画を立てて勉強している | 46.1% |
| 家庭で、学校の宿題をしている | 92.3% |
| 家庭で、授業の予習・復習をする | 50.0% |
| ＜授業の内容・取組、教師の指導＞ | |
| 教師は、自分のよいところを認めてくれている | 69.3% ▲ |
| 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた | 65.4% ▲ |
| 自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた | 57.7% |
| 生徒の間で話し合う活動を通じて、考えを深めたり、広げたりすることができている | 84.6% ○ |
| ＜自己肯定感・規範意識・その他＞ | |
| 自分には、よいところがある | 76.9% |
| 将来の夢や目標をもっている | 73.0% |
| 人の役に立つ人間になりたい | 92.3% |
| 学校の規則を守っている | 88.5% |
| いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う | 96.1% |
| ＜調査対象教科（数学・理科）に対する認識、調査問題への取組＞ | |
| 数学の勉強は好き | 61.6% ○ |
| 数学の勉強は大切だと思う | 92.3% ○ |
| 数学の授業の内容はよく分かる | 88.4% ○ |
| 今回の数学の問題で、言葉や式を使って説明する問題は、最後まで解答を書こうと努力した | 57.7% |
| 理科の勉強は好き | 65.4% |
| 理科の勉強は大切だと思う | 76.9% |
| 理科の授業の内容はよく分かる | 73.1% |
| 今回の理科の問題で、文章で解答を書く問題は、最後まで解答を書こうと努力した | 65.4% |

※具体的な時間等が示されている質問以外の質問については、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」など、肯定的回答の合計です。

＜生活習慣＞

▲今年度の3年生は、「朝食を食べて登校する」生徒の割合が、約77%となっており、過去の生徒比べ、低い割合となっています。

○放課後や週末の過ごし方については、「テレビ・DVD・ゲーム・インターネットをして過ごす」の割合が、平日で約85%、週末で約77%となっており、高い割合を示しています。

＜学習習慣・読書週間＞

◎1日30分以上読書をする生徒の割合は、約40%で昨年度に比べ高くなっています。

▲平日に1時間以上家庭学習に取り組む生徒が50%となっており、全国平均と比較しても短い傾向にあります。放課後に「テレビやインターネット」をして過ごす時間が長いことも踏まえ、「家庭学習」の習慣を定着させていくことが大きな課題であると言えます。

▲家庭で「宿題」に取り組む生徒は90%を超えているのに対して、「自分で計画を立てて勉強している」生徒の割合は約46%に止まっており、家庭学習の方法を各教科等でさらに丁寧に指導していく必要があると考えています。

＜授業の内容・取組、教師の指導、自己肯定感＞

◎「授業では、話し合う活動を通じて、考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答している生徒の割合が84.6%となっており、全国平均と比較して高い傾向にあります。

▲「自分には、よいところがある」と回答している生徒は約77%で、昨年度より増加傾向にありますが、一方で、「教師は、自分のよいところを認めてくれている」と回答している生徒は約69%で、減少傾向にあります。引き続き、Q-Uテスト等を効果的に活用して教育相談活動を充実させ、生徒理解に努めて参ります。

＜成功体験・規範意識・その他＞

◎「学校の規則を守っている」と回答した生徒の割合が約90%、「いじめはどんな理由があっても許されない」と回答した生徒の割合が約96%となっており、規範意識の高さが読み取れます。

◎「将来の夢や目標をもっている」「人の役に立つ人間になりたい」と回答している生徒の割合は、昨年度とほぼ同様の傾向にあります。

学校では、今回の全国学力・学習状況調査の結果を真摯に受け止め、保護者の皆様や地域の皆様のご支援とご協力をいただきながら、教育環境の整備や学習指導の充実・改善に努めて参りますので、今後ともよろしくご協力申し上げます。